

ライフキャリア教育かながわモデル発信事業の検証・見直しについて

1 事業の目的

就職前の若年層（高校生・大学生）を対象に、固定的性別役割分担意識に捉われず、自身の個性や適性に応じたライフキャリア（仕事を含めた生涯にわたる生き方）を考える機会を提供することにより、男女ともに自らが望む生き方を選択できるようにすることをめざす。

2 これまでの実施概要

ライフキャリア教育スタート	授業案の普及啓発	高校向けの取組みスタート、連携大学の拡大	高校・大学への普及促進、連携大学の更なる拡大	
H25	H26	H27	H28	H29
<p>○大学、NPO、国及び県等で組織する「大学における男女共同参画プログラム検討委員会」を設置</p> <p>↓</p> <p>大学生向けの男女共同参画の視点によるライフキャリア教育授業案を作成</p>	<p>①授業案を活用した授業の実施 [5大学]</p> <p>②外部講師の派遣 [3大学にて6回]</p> <p>③大学向け啓発イベント・情報交換会の実施</p> <p>④大学生向け啓発冊子・周知リーフレットの作成</p> <p>⑤ライフキャリア教育実施状況等に関するアンケート調査</p>	<p>大学</p> <p>①外部講師の派遣 [4大学にて6回]</p> <p>②大学生向けライフキャリア啓発イベントの実施</p> <p>〔キックオフイベント ・ライフキャリア道場(11回) ・ライフキャリアプランニングサミット〕</p> <p>↓</p> <p>県との連携大学 延べ 11 大学</p>	<p>①外部講師の派遣 [6大学にて7回]</p> <p>②大学生向け啓発冊子「MEET ME BOOK」の作成</p> <p>③アクティブ・ラーニングの手法を使った教材作成</p> <p>〔視聴覚教材(導入編) ・ワークシート ・ロールモデル事例集〕</p> <p>④大学生向け出前講座の実施 [20 大学]</p> <p>↓</p> <p>県との連携大学 31 大学</p>	<p>①外部講師の派遣 [6大学にて7回]</p> <p>②大学生向け啓発冊子等の印刷配布</p> <p>③大学生向け視聴覚教材(発展編)の作成</p> <p>↓</p> <p>県との連携大学 41 大学</p>
		<p>高校</p> <p>○高校生向け啓発冊子「mosimo book」等の作成</p>	<p>○高校生向け啓発冊子等の印刷配布</p>	<p>①高校生向け啓発冊子等の印刷配布</p> <p>②高校生向け出前講座のモデル実施 [3高校]</p>

3 事業の成果と課題

(1) 大学向けの取組み

- ①大学が実施するライフキャリアの授業等を支援するため、外部講師派遣の実施
- ②大学及び大学生に向けて、ライフキャリア教育や授業案周知のためのイベント実施 (H26～27)
→大学の授業等で活用できる啓発冊子及び視聴覚教材等による普及啓発

【成果】

○ライフキャリア教育に対する大学生の高い満足度

…外部講師派遣による大学の講座や、平成 28 年度の出前講座の参加者アンケートの結果によると、講座に参加して「良かった」と感じた学生、また、この講座が「今後の参考になる」と答えた学生はそれぞれ約9割となっており、学生の満足度は非常に高い。

就職を間近に控えた大学生にとって、ライフキャリアは、近い将来の参考になる関心の高いテーマであると思われる。

○県内大学へのライフキャリア教育の広まり

…県内 68 大学中 41 大学(約3分の2)が県と連携してライフキャリア教育の取組みを実施。

また、ライフキャリア教育は未知の分野であるため、学生に教えられる講師が少ないという課題があるが、視聴覚教材(平成 28～29 年度作成)の活用により課題解消が期待される。

【課題】

○取り組むに当たっての大学側のハードル

…未だ県と連携していない大学からは「就職を意識したキャリア教育には既に取り組んでいる」「(ライフ)キャリアまでには至っていない」「カリキュラムが過密で新しいものに取り組みづらい」などの声がある。

また、専門性の高い大学(医療系等)などは、県のライフキャリア教育自体が大学側のニーズに合致しておらず、連携が難しい状況にある。

(2) 高校向けの取組み

①平成 27 年度より、県内全高校(公立・私立及び中等教育学校や特別支援学校を含む 290 校)へ啓発冊子等を送付し、高校の先生が、指導者用資料を基に冊子等を活用。

②平成 29 年度には、好事例として県内高校へ波及させるため、県立高校 3 校にて、NPO 法人(学校等にてキャリア教育を実施)の講師によるアクティブ・ラーニング方式を活用した出前講座をモデル的に実施。

【成果】

○授業・HRでの活用と冊子の配布のみの高校が約半分ずつ

…冊子配布時に同封したアンケートの回答校(回収率は約6割)のうち、授業・HR等で教材を活用しているのは5割強。ほか、冊子配布のみの高校が約4割。

冊子を活用した教科は「HR」が約5割、次が「総合学習」と「家庭基礎・家庭総合・生活デザイン」で約1割ずつ。「保健」「現代社会」での活用も若干ある。

○冊子のわかりやすさについては高評価

…回答校のうち約7割が「冊子は理解しやすい」と回答しており(特別支援高等学校を除くと8割強)、冊子のわかりやすさについては、高校より好評価を得ている。しかし「字が小さく内容を詰め込みすぎている」「生徒がグラフを理解するのが難しい」などの声も若干ある。

○出前講座への高い満足度

…出前講座受講生徒の約7割が、「大いに参考になった」又は「多少参考になった」と回答している。

【課題】

○高校に向けた更なる普及啓発

…多忙な学校現場において、授業の中に新たにライフキャリア教育を取り入れてもらうのは極めて難しい状況である中、一人でも多くの生徒が自身のライフキャリアについて考える機会を与える必要がある。

○冊子を活用していない高校に対する取組み支援

…アンケートに回答していない約4割の高校は、冊子を活用できていないと推測されるほか、アンケート回答校のうちの約1割が「冊子を活用していない」と回答している。

○冊子の配布のみに留まっている高校が、授業等で取り組めるような工夫

…視聴覚教材(平成 30 年度作成予定)を活用した取組みの働きかけを行う必要がある。

4 平成30年度に向けた取組み（案）

(1) 大学向けの取組み

- 県内大学の約3分の2が県と連携したライフキャリア教育に取り組み、一定の広まりが見られたほか、啓発冊子や視聴覚教材等の充実が図られたことから、大学に向けては、今後は教材の普及啓発や外部講師派遣の継続等により、大学の取組みを後押しする。
- 性別による人数の偏りがある職種など（男性保育士、男性介護士、女性技術者等）、男女共同参画の観点から、多様なロールモデルの紹介を引き続き行う。

(2) 高校向けの取組み

- 高校に向けては、ライフキャリア教育の更なる普及啓発のため、引き続き啓発冊子を提供すると共に、これまで取り組んでいない高校を主なターゲットとして、出前講座等の好事例の発信に努める。
- 啓発冊子の更なる活用に向けて、冊子と一緒に活用できる視聴覚教材を新たに作成する。作成に当たっては、高校生に企画・制作に加わってもらい、当事者の視点を生かした教材とする。

(3) 若い世代への普及啓発

- 中学生など、高校生よりも更に若い世代へのライフキャリア教育の取組みを検討する。

5 今後の検討事項

(1) 啓発の手法について

〔大学向け・高校向け〕

- ①視聴覚教材を中心とし、補足資料として「MEET ME BOOK データ編／ロールモデル編」を活用。
- ②（必要に応じて）出前講座を実施

〔中学向け〕

- 今後の取組みを検討

(2) 今後の事業展開について

- 定期的に事業の進捗状況報告や効果検証を行い、事業展開を図っていく。
- 国（文部科学省等）で同趣旨の事業を開始した場合は、所期の目的を達成したものとして事業を終了する。

ライフキャリア教育かながわモデル発信事業に関するアンケート結果

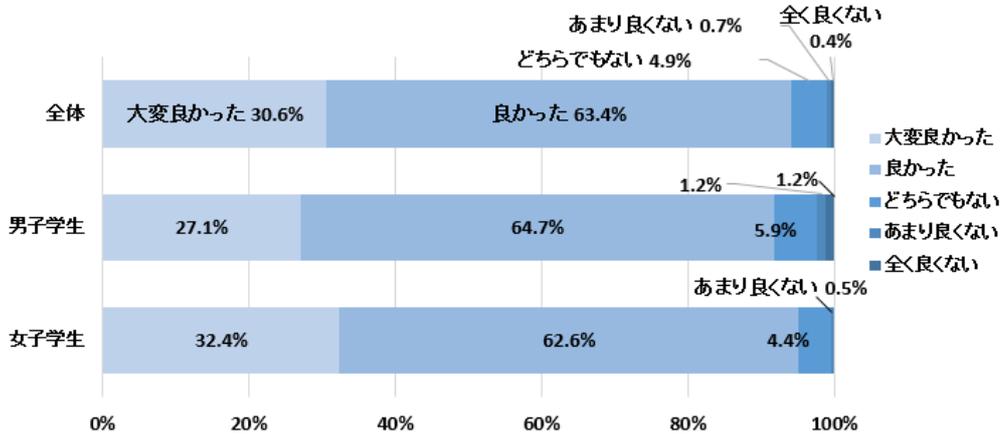
1 大学向け事業に関するアンケート

平成 29 年度ライフキャリア教育外部講師派遣制度（大学への派遣） 受講者アンケート

〔回答者数:4大学 269 人(男子学生 31.6%、女子学生 67.7%、性別未記入 0.7%)〕

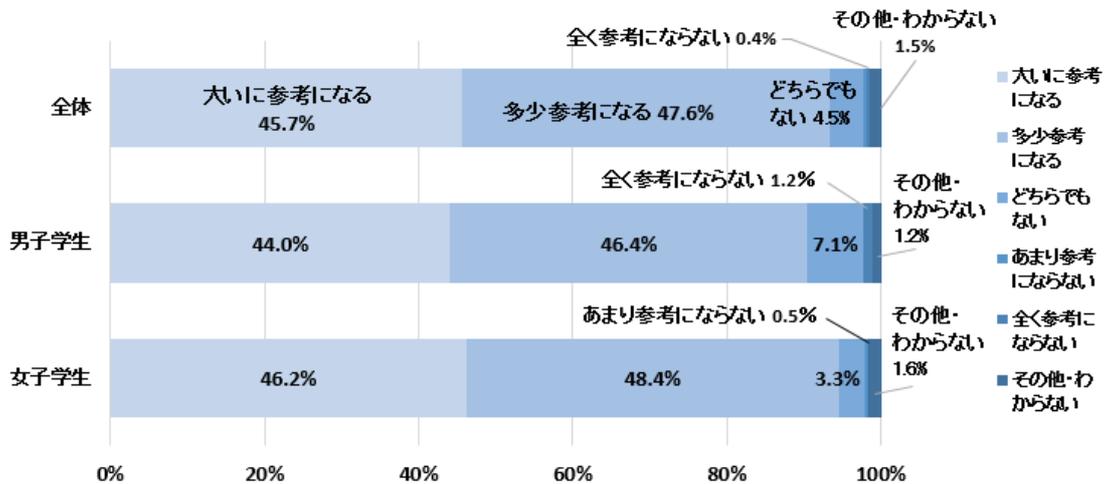
Q1. ライフキャリア講座に参加した感想(全体の数字は性別未記入を含む。以下同じ)

⇒「大変良かった」「良かった」と回答した人は 94.0%(男子 91.8%、女子 95.0%)だった。



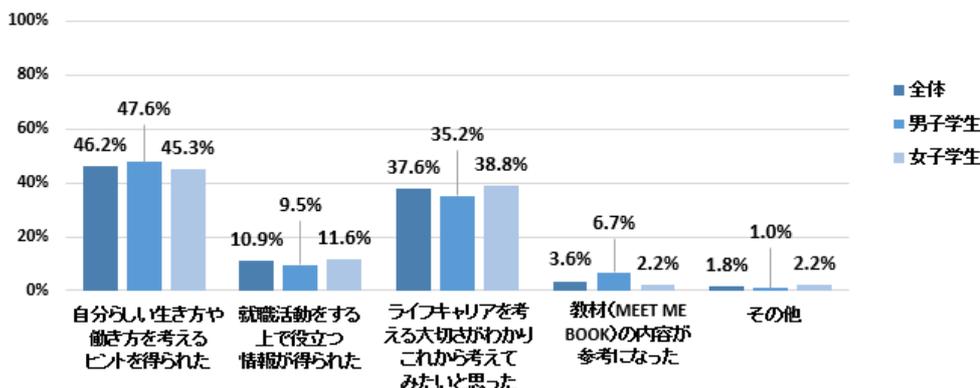
Q2. 今回の講座は今後の参考になりますか。

⇒「大いに参考になる」「多少参考になる」と回答した人は 93.3%(男子 90.4%、女子 94.6%)だった。



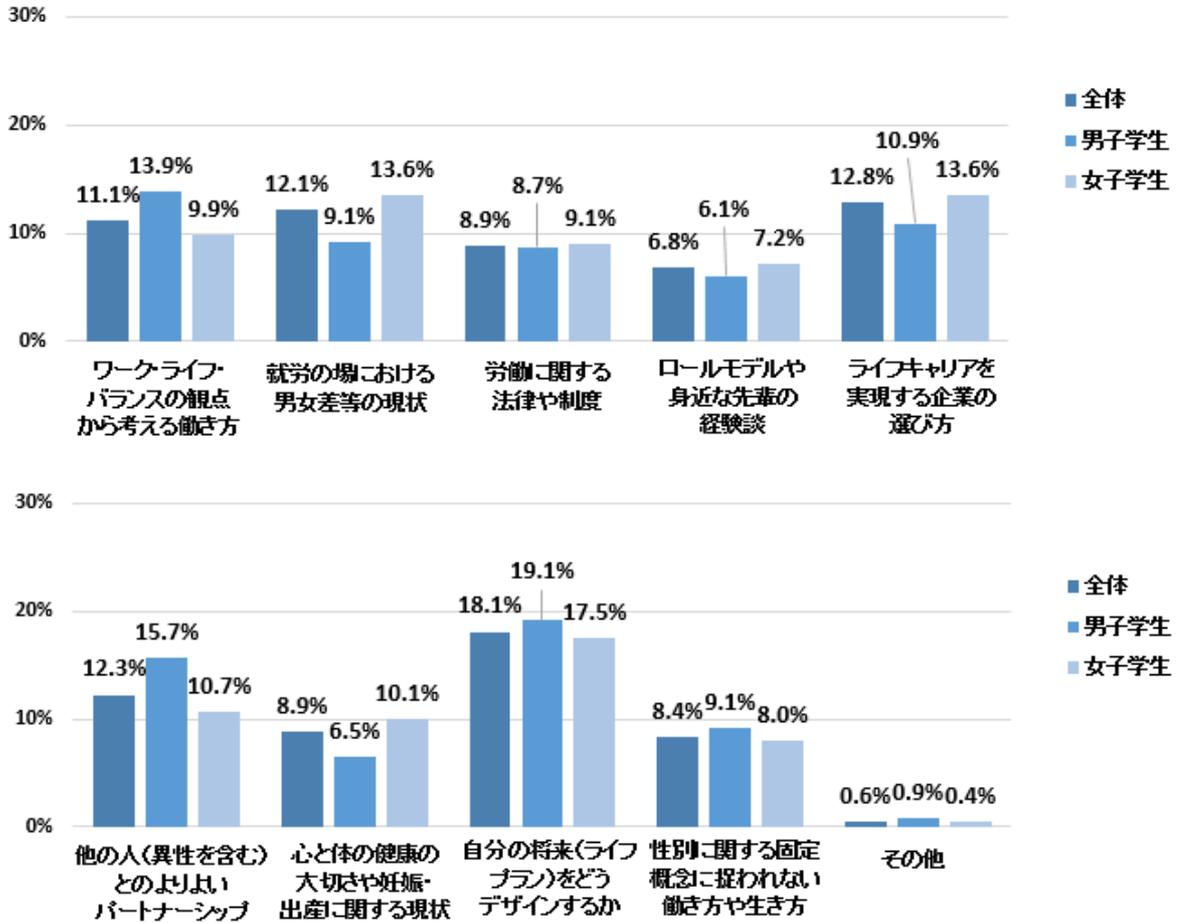
Q3. この講座で参考になった点(複数回答可)

⇒「自分らしい生き方や働き方を考えるヒントを得られた」が 46.2%で最多、次いで「ライフキャリアを考える大切さがわかりこれから考えてみたいと思った」が 37.6%だった。



Q4. ライフキャリアに関して今後知りたいこと(複数回答可)

⇒「自分の将来(ライフプラン)をどうデザインするか」が最多で 18.1%、次に「ライフキャリアを実現する企業の選び方」「他の人(異性を含む)とのよりよいパートナーシップ」「就労の場における男女差等の現状」が、それぞれ約 12%だった。



Q5. 受講後の学生の感想

- 将来について具体的に考え直したことにより、今後の目標が明確になった。
- 仕事に対してだけではなく、生きていく上で必要な家庭や趣味なども含めて、これからの人生について考えることができた。
- 優先順位、判断規準などの軸となるもの、日々の生活のやるべきことなどをもう一度見直そうと思った。
- 今まで就職について考えたことはあったが、中々その先についてはじっくり悩んだこともなかったので、とても良い機会だった。参加して良かった。
- キャリアを働くことでしか意識していなかったが、もっと長いスパンでとらえることができた。
- グループワークで他の人の意見を聞いていると、将来についてちゃんと考えている人もいたから参考になった。

Q6. 講師派遣を受けた大学側の感想

- 現代女性の労働や生活を総合的に提示してもらえたので、学生は長期的な視点で人生を捉えられた。
- 今後のキャリアを考える上で導入となるよい内容だった。
- 普段の授業とは立場の違う外部の講師から話を聞くことで、美大の特色ある教育とは区別でき、特別感を与えられることが良かった。選択授業でこの手の授業を取りそこねている学生にも、ライフキャリアを考えるきっかけを与えられることが良い。
- グループワークが特に効果的に思われたが、それに至る組み立ても必要な情報、講義であった。

2 高校向け事業に関するアンケート

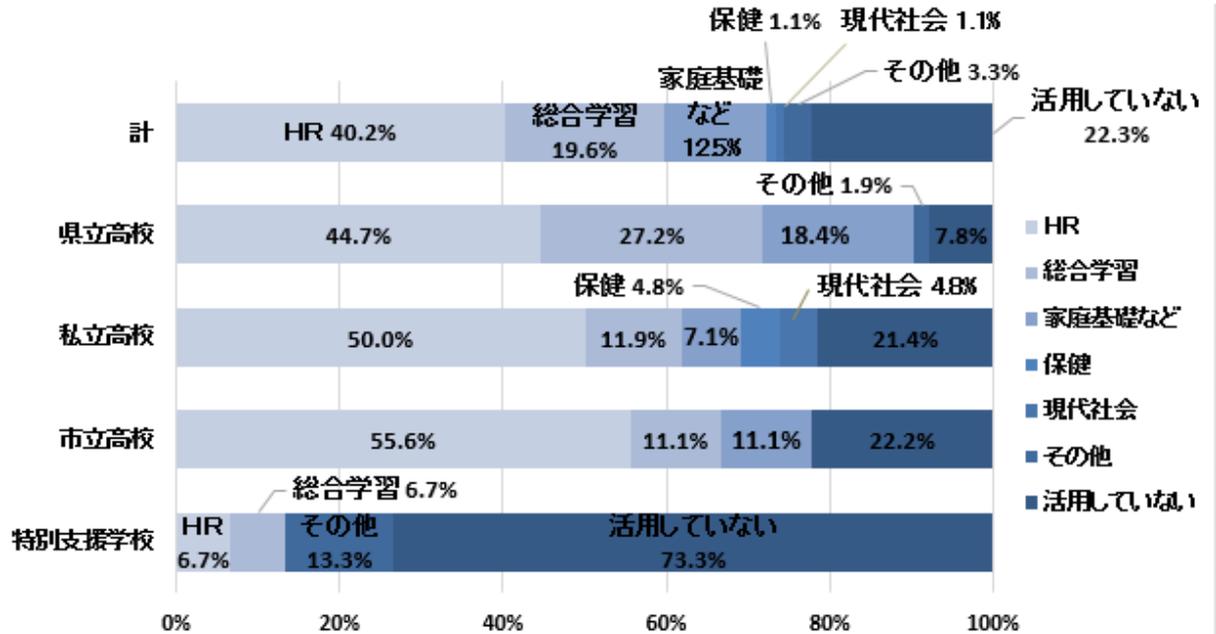
(1) 平成 28 年度末配布「mosimo book」(高校2年生向け啓発冊子)に関するアンケート

[回答高校数:178 校(配布を行った県内全高校(特別支援学校を含む)290 校のうちの 61.4%が回答)]

Q 1. 啓発冊子を活用した教科

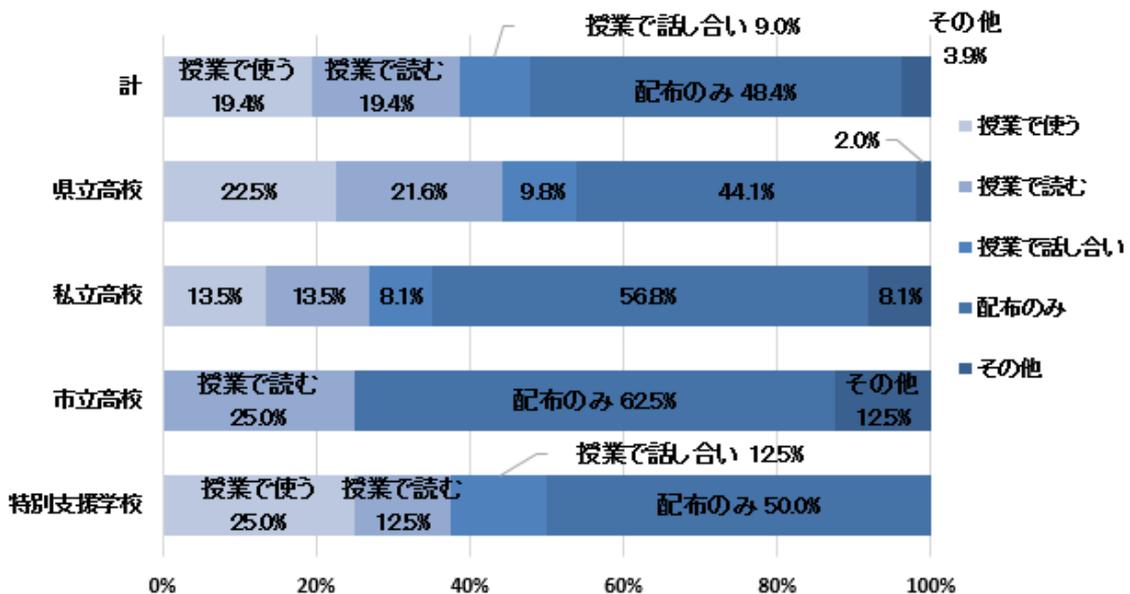
⇒「HR」で活用が最多で 40.2%、次いで「総合学習」が 19.6%、「家庭基礎など」が 12.5%だった。

アンケート回答校のうち 22.3%が「活用していない」と回答しており、特別支援学校の割合が高い(73.3%。特別支援学校を除いた高校全体では、「活用していない」は 12.3%)。



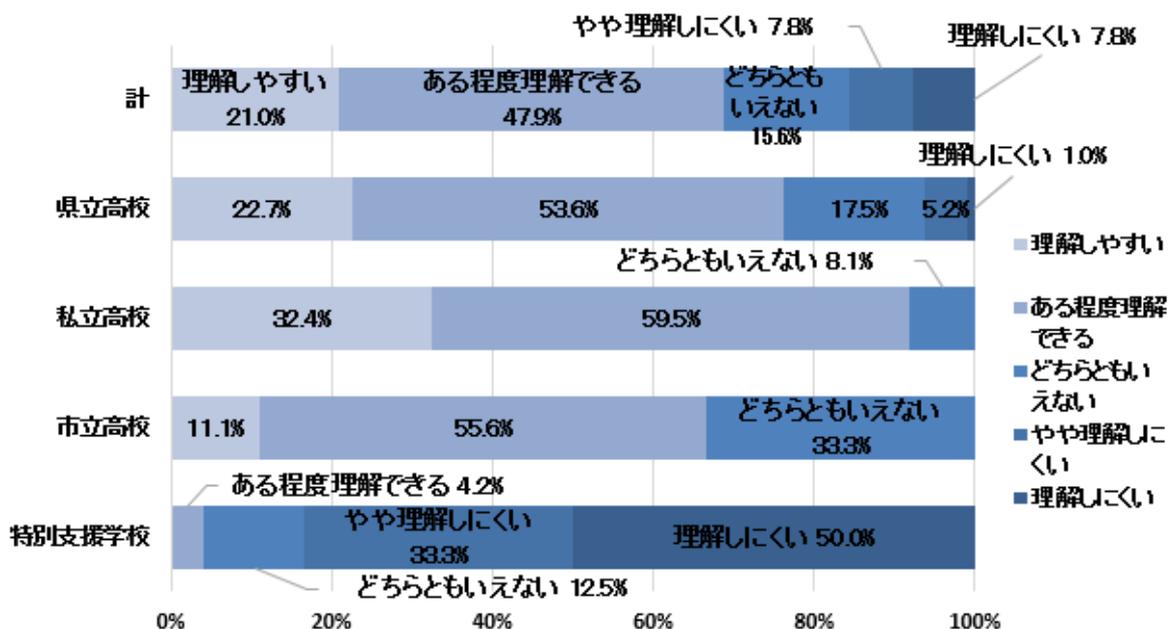
Q 2. 冊子の活用方法 (冊子を活用している高校に対して質問)

⇒「授業で使う／読む／話し合い」など、授業での活用が 47.7%。配布のみは 48.4%で、私立高校(56.8%)や市立高校(62.5%)の割合が高い。



Q3. 冊子の内容は生徒にとって理解しやすいと思われるか

⇒「理解しやすい」「ある程度理解できる」が 68.9% (特別支援学校を除くと 79.7%) だった。
 私立高校、市立高校からは「やや理解しにくい」「理解しにくい」という回答はゼロであった。



Q4. 改善すべき点、生徒の反応に関する意見

<改善すべき点>

- 書かれている内容に対して生徒の考えを書けるようなスペースがあると良い。(複数の意見あり)
- 文章が苦手な生徒が多いので、文字を大きく・少なくしてもらいたい。
 …文字や文章が多いという意見も複数あり。
- カラーで見やすいが、内容が盛りだくさんではないか。
- 収入だけではなく必要な出費も考えられると良い。
- 結婚や家庭のことのページが多く仕事が少ない。
- わくわく妄想用婚姻届は結婚を前提にしているため、他のパターンを考える必要がある。
 …このシートの記入に際してクラスで盛り上がったという意見もあったが、このシートがあるため冊子の活用を見合わせたなど、見直しを求める意見が複数あり。
- 奨学金の返還や進学先の学費のことなども考える機会ができればありがたい。
- 具体的なライフキャリアプランの例があると理解しやすく、プランも立てやすくなると思う。
- DVD 教材やロールモデル事例集の配布をお願いしたい。

<生徒の反応など>

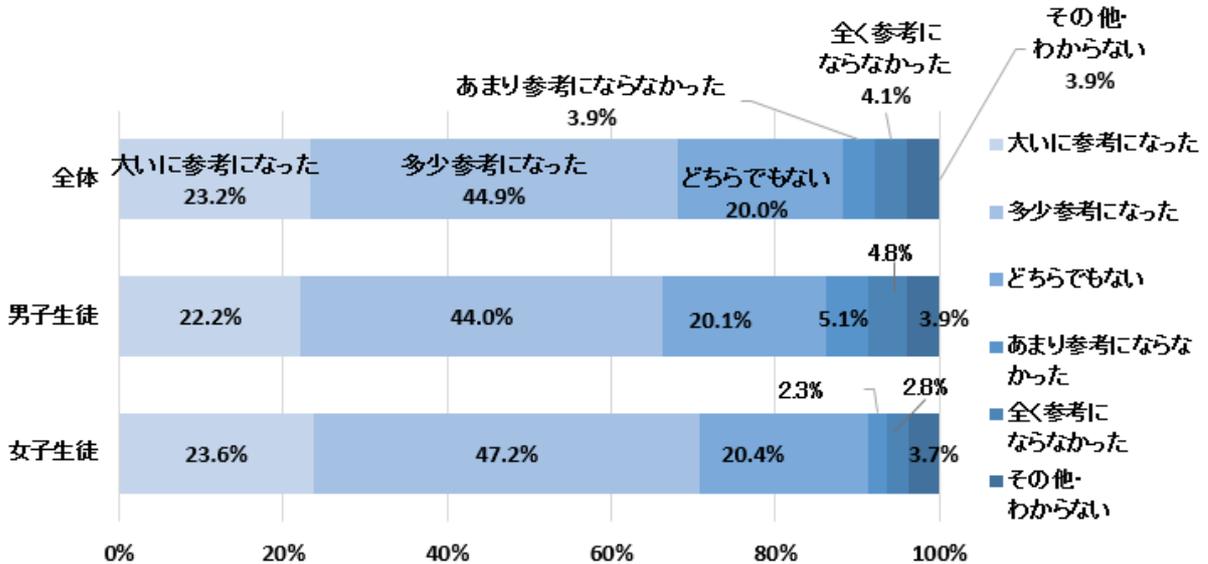
- 将来についてお互いに語ることができる機会となった。
- 教員向けガイドもありグループワークがやりやすい。生徒にとっても興味・関心がある題材が多く、活発に意見を出し合えた。
- 生徒からは「全て将来に起こりそうな『もしも』だから、きちんと考えたいと思った」「みんなの考えが異なっているため、考えや発想が広がった」などの反応があった。
- まだ先のことと考えている生徒が多いようだったが、この冊子をきっかけに将来のことを考えてみようとする生徒がいた。
- 有権者教育と結びつけて学習させてみた。今まで他人事のように考えていたことが、進路を含めより真剣に具体的に考えるようになった。
- 限られた授業時間で詳しくこの冊子を扱うことは難しいが、生徒の生活設計に役立つ冊子だと思う。

(2) 平成 29 年度高校向け出前講座 受講者アンケート

[回答者数:2校 571 人(男子生徒 58.7%、女子生徒 38.0%、性別未記入 3.3%)]

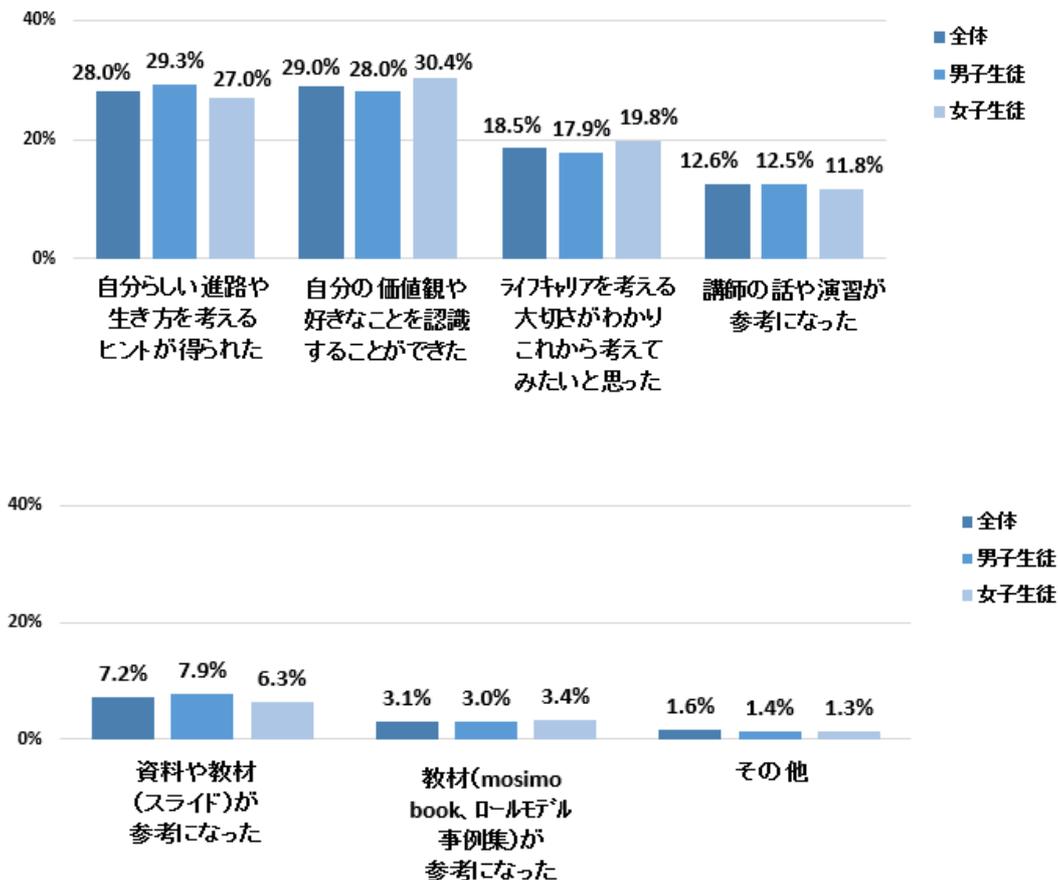
Q1. 講座に参加した感想(全体の数字は性別未記入を含む。以下同じ)

⇒「大いに参考になった」「多少参考になった」と回答した人は 68.1%(男子 66.2%、女子 70.8%)だった。



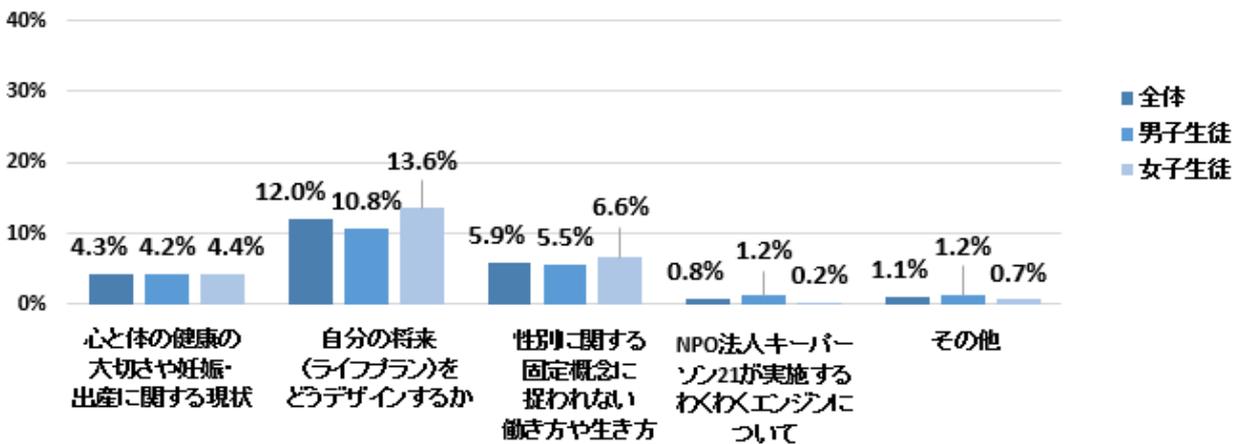
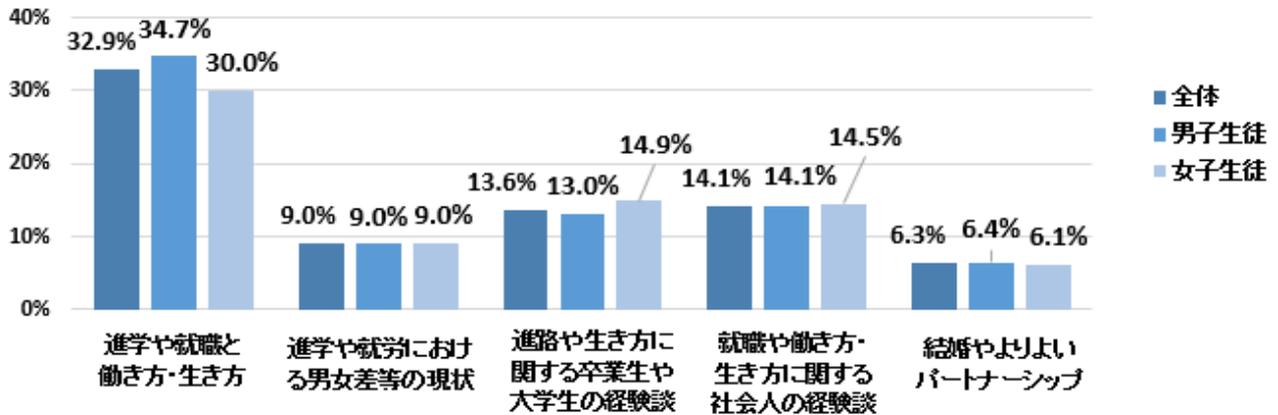
Q2. この講座で参考になった点(複数回答可)

⇒「自分の価値観や好きなことを認識することができた」が 29.0%、「自分らしい進路や生き方を考えるヒントが得られた」が 28.0%と多かった。



Q3. ライフキャリアに関して今後知りたいこと(複数回答可)

⇒「進学や就職と働き方・生き方」が最多で 32.9%、次は「就職や働き方・生き方に関する社会人の経験談」が 14.1%、「進路や生き方に関する卒業生や大学生の経験談」が 13.6%だった。



Q. 4 受講後の生徒の感想

- 男女関係なく、本当に自分がなりたい職業に就くことが大切だということがわかった。
- 将来について改めて深く考えさせられた。
- 男らしいと思われるような機械が好きで、周りとは違うなと思うところがあって、中学生のときに自分の好きなことができなかった。話を聞いてよかった。
- 進路はいつでも変えられるということがわかり、心が広がった気分。
- 教材としてもらった冊子を読むことでイメージがわかりやすい。
- もっとたくさんの学生の現状例を教えてください。
- 今まであまり考えていなかったことを考えさせてくれた。
- 今回、自分の価値観を認識することができ、相手との違いを考えて活かしたいと思った。

Q. 5 受講後の先生の感想

- もっと具体的に、△△になるには□□という道・方法があるというのを示した方がわかりやすいのではないかと。
- クイズへの回答の様子を見て、生徒の方が男女差に対する意識が低いと感じられた。現在は、男女どちらにも属していないと感じるインクルーシブしていく時代である。時代と生徒の意識に沿うような企画であってほしい。
- 現在学んでいることを、将来どのように活かすことができるのか具体的にイメージできるような企画で、生徒のモチベーションを高める内容のものがよい。
- 学力の低い学校で、講義型での講演は学習の成果が出づらいため、生徒参加型の講義をした方が良かったと思った。